

<h2 style="text-align: center;">月度個人山行報告書</h2>			報告者	町田 修	参加メンバー	L: 町田修 ・ 町田明美
			報告日	06/09/13		
山 域	鹿児島	山行日	06年 08月			
山 名	開聞岳 924		16 (水)			

山行目的	故郷の山を登る	コースタイム :	天候 : 晴れ
------	---------	----------	---------

配布先	ルート図
集会:12	
山行: 1	
原紙: 集会担当者	

08月16日(水)
04:30 実家出発
06:40 登山口出発
08:00 600m :10
09:20 山頂 :40
10:50 550m 11:00
11:20 駐車場

山行報告 ナビに「開聞駅」をセットして4時半に実家を出る。午前中の比較的涼しいうちに片付けたい戦略だ。ルートは知覧経由である。朝もやの知覧の茶畑を突っ切り一時間ほど走る。南の方向にあの端正な裾野を広げた開聞岳のシルエットがうっすらと浮び上がる。薩摩富士とはよく言ったものだ。我ながら故郷の山を自慢したい気分になる。「開聞岳の山の巢に、日暮れは鳥も帰るのに・・・」

深田久弥は1000mに満たないこの山を100名山に推挙するのに少しの躊躇もない、と言い切っている。それは海岸線からこれほど円錐形にきれいに立ち上がる山が他にないからである。

さて、登山の話であるが、行動食は途中のコンビニでと軽く考えていたがそんなものは簡単に出てこない。早朝散歩の人に尋ねて、やっと食料を調達する。登山口は「ふれあい公園」からである。南国特有のシダが生い茂る樹林の中は風がまったく動いていない。更に火山岩の砕けた石ころ道は歩きにくい。

1P目からすでに汗だくとなる。山腹を時計回りに(ジグザグでも直登でもない、円錐の山を一回りする)高度を上げる。800mあたりから樹林が切れて、低木のシバに変わる。風景が開け、眼下に東シナ海の

波が海岸を洗っている。更に回り込むと池田湖も見えてきた。山頂は好天で風もあり気分がいい。晴れた日には遠く屋久島や北の桜島まで視界が広がるそうだ。この日は大隈半島の佐多岬止まりだった。



海岸線からの開聞岳

山頂の先客は山口から来た年配の夫婦だった。100名山の九州の山は屋久島を残して開聞岳が最後とのこと、お祝いのオレンジを振舞ってくれた。

次回の目標を海上の屋久島に決める。

確認 (リダー)	
作成 報告者)	
	